整備計画

治水に関する目標と具体的内容
（青森県管理区間）

- ●整備目標の基本的な考え方
- ●治水対策の具体的内容

青森県県土整備部
河川砂防課

整備の目標

●今回定める河川整備計画の対象期間は**概ね30年間**

●岩木川・平川・浅瀬石川の三川合流地点を境に、その下流を**五所川原圏域**、上流を**弘前圏域**と設定

●計画対象区間
維持管理を含む計画のため**県管理区間（桃色）全て**を対象

●工事実施区間
計画対象区間の内、堤防背後の資産集中状況を勘案して**工事実施区間**を設定



整備の目標

治水上の課題

●昭和50年、52年の大災害を受け、災害復旧事業等を行ってきたものの、未だ流下能力が低い区間があり、平成に入ってからも度々被害が生じている状況


旧十川（五所川原市H2.9）


金木川（五所川原市H14.8）


後長根川（弘前市H14.8）

整備目標の基本的な考え方

●各地区で実際に発生した洪水に対応できるような目標を設定
●流域面積、想定氾濫区域内の資産等から、県内バランスを考慮して目標を設定
●直轄管理区間との流量を整合させる
●家屋等、資産が集中している区間を工事実施区間として設定

工事実施区間（五所川原圏域）

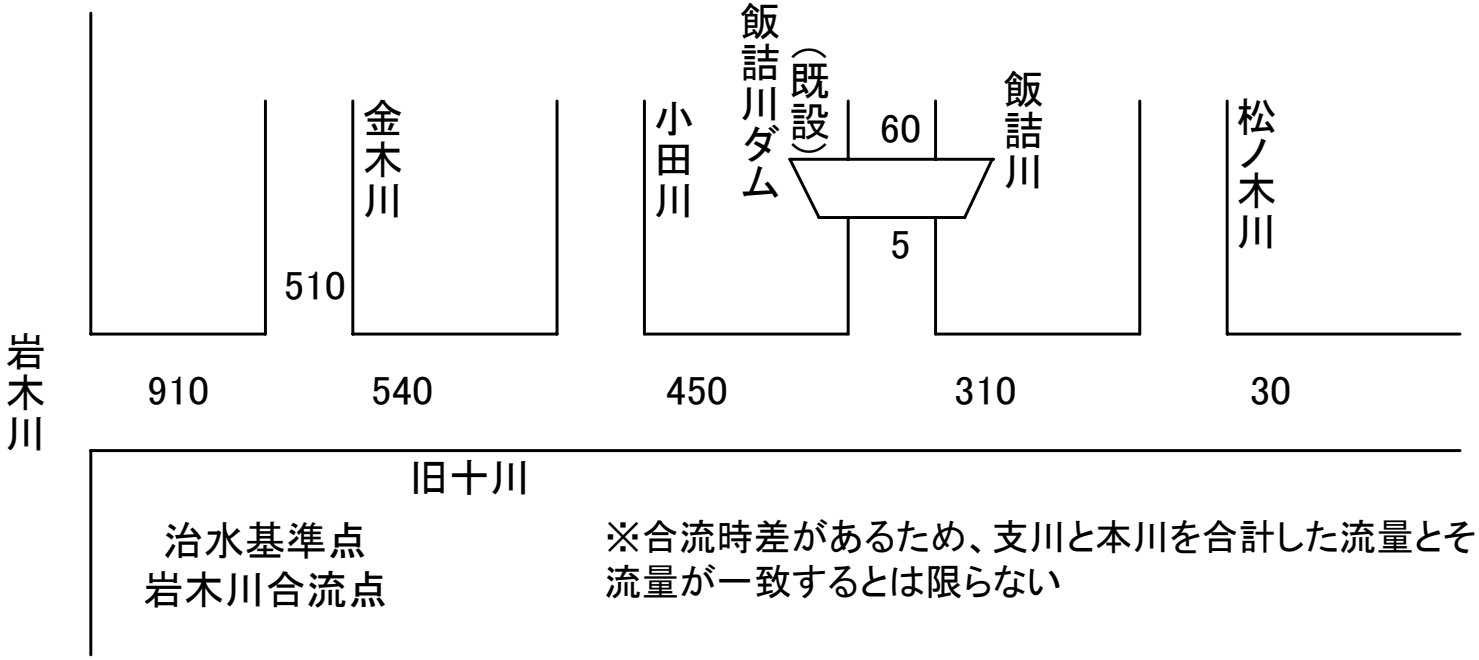
旧十川工区、金木川工区



治水に関する目標（五所川原圏域）

旧十川工区、金木川工区

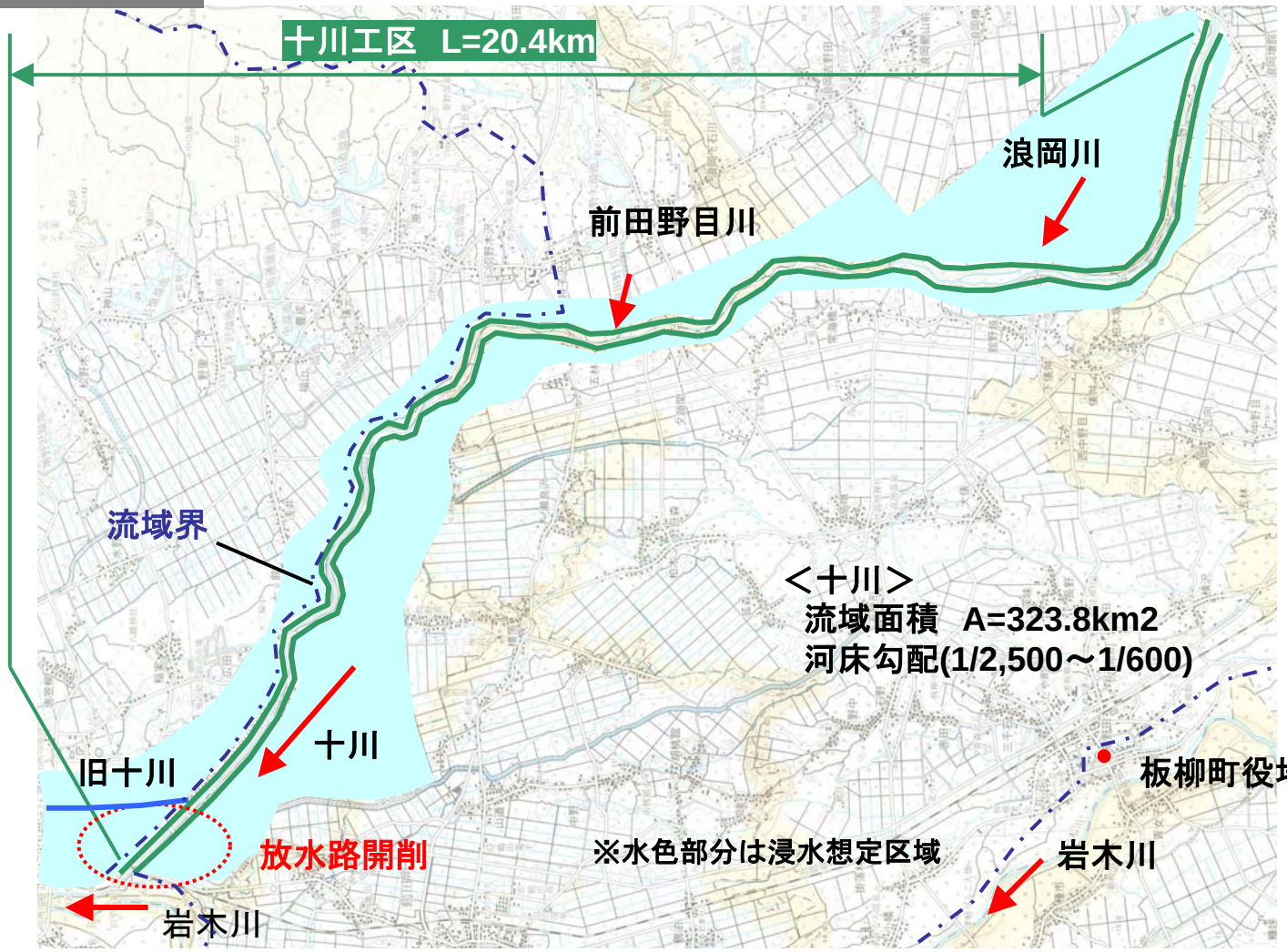
●近年に大きな洪水被害を受けた昭和56年8月洪水や平成2年9月洪水、平成14年8月洪水を概ね安全に流下させるものとする。（戦後の主要洪水の実績降雨に対して概ね安全な流量）
●旧十川工区：岩木川合流点で910m3/s（基本方針記載流量1300m3/sの内数となっている）
金木川工区：旧十川合流点で510m3/s



※合流時差があるため、支川と本川を合計した流量とその下流の流量が一致するとは限らない

工事実施区間（五所川原圏域）

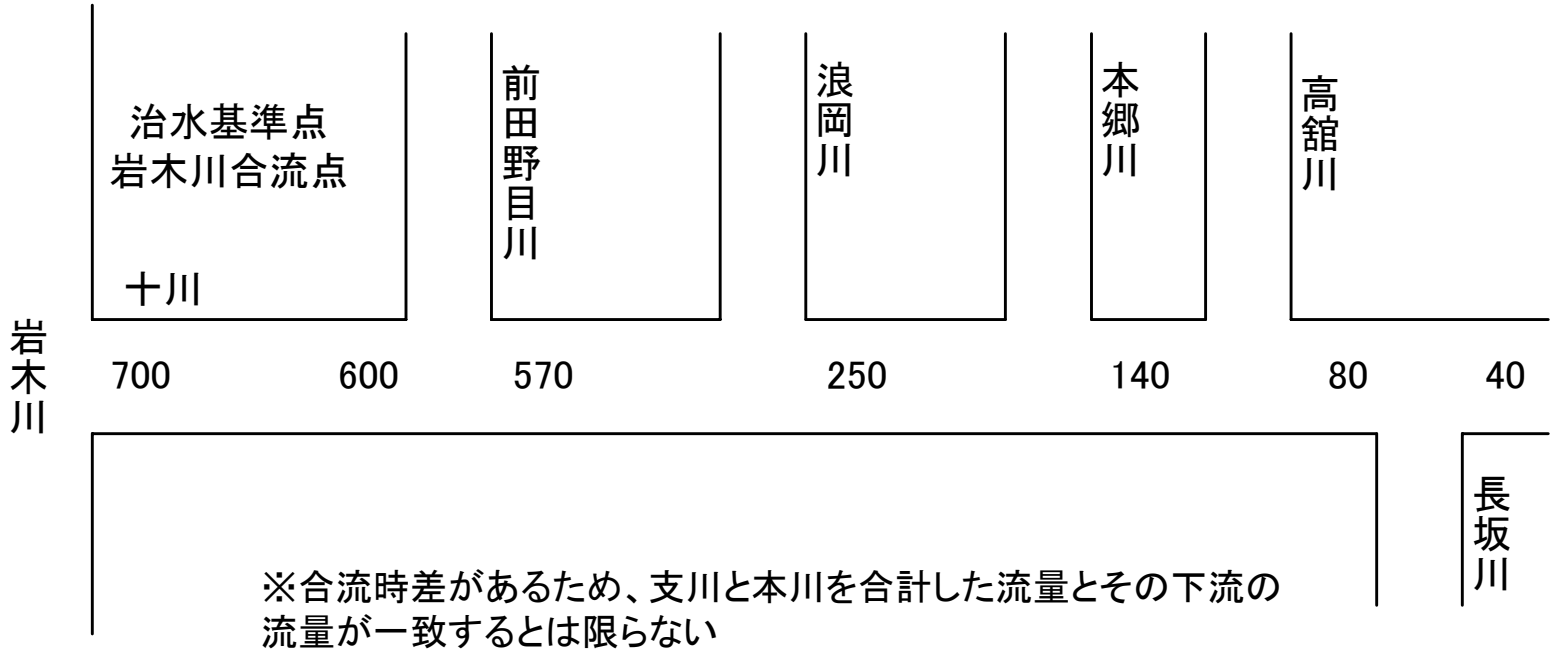
十川工区



治水に関する目標（五所川原圏域）

十川工区

●近年に大きな洪水被害を受けた昭和50年8月洪水、平成2年9月洪水、平成14年8月洪水を概ね安全に流下させるものとする。（6時間降雨が1/200確率という昭和52年８月洪水以外の洪水には概ね対応可能）
●十川工区：岩木川合流点で700m3/s（基本方針記載流量　940m3/sの内数となっている）



具体的な整備内容（五所川原圏域）

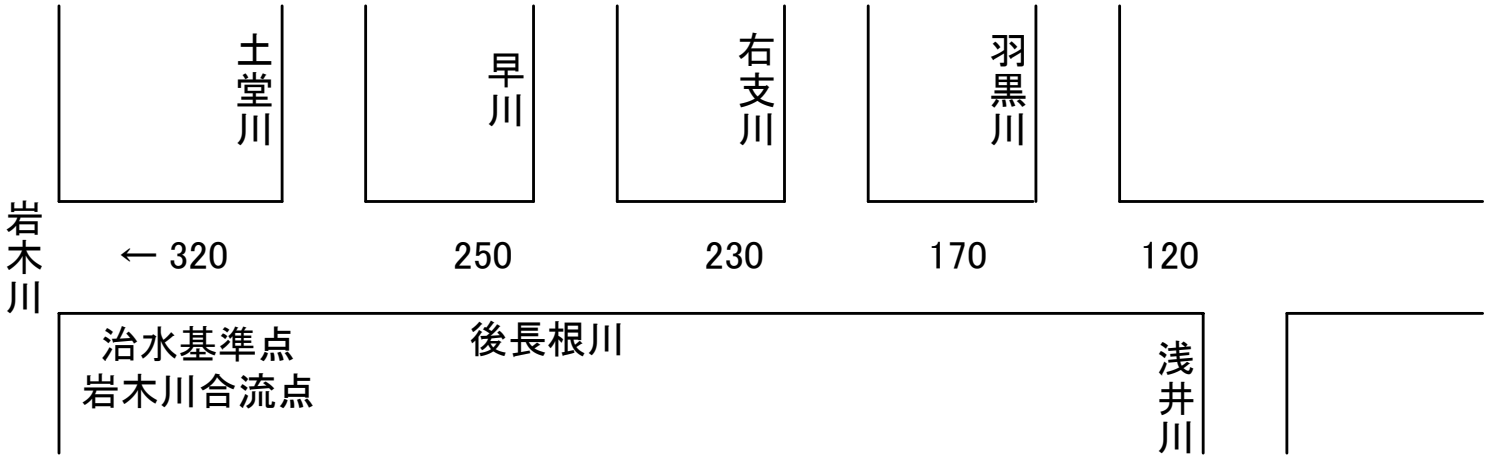
後長根川工区



具体的な整備内容（五所川原圏域）

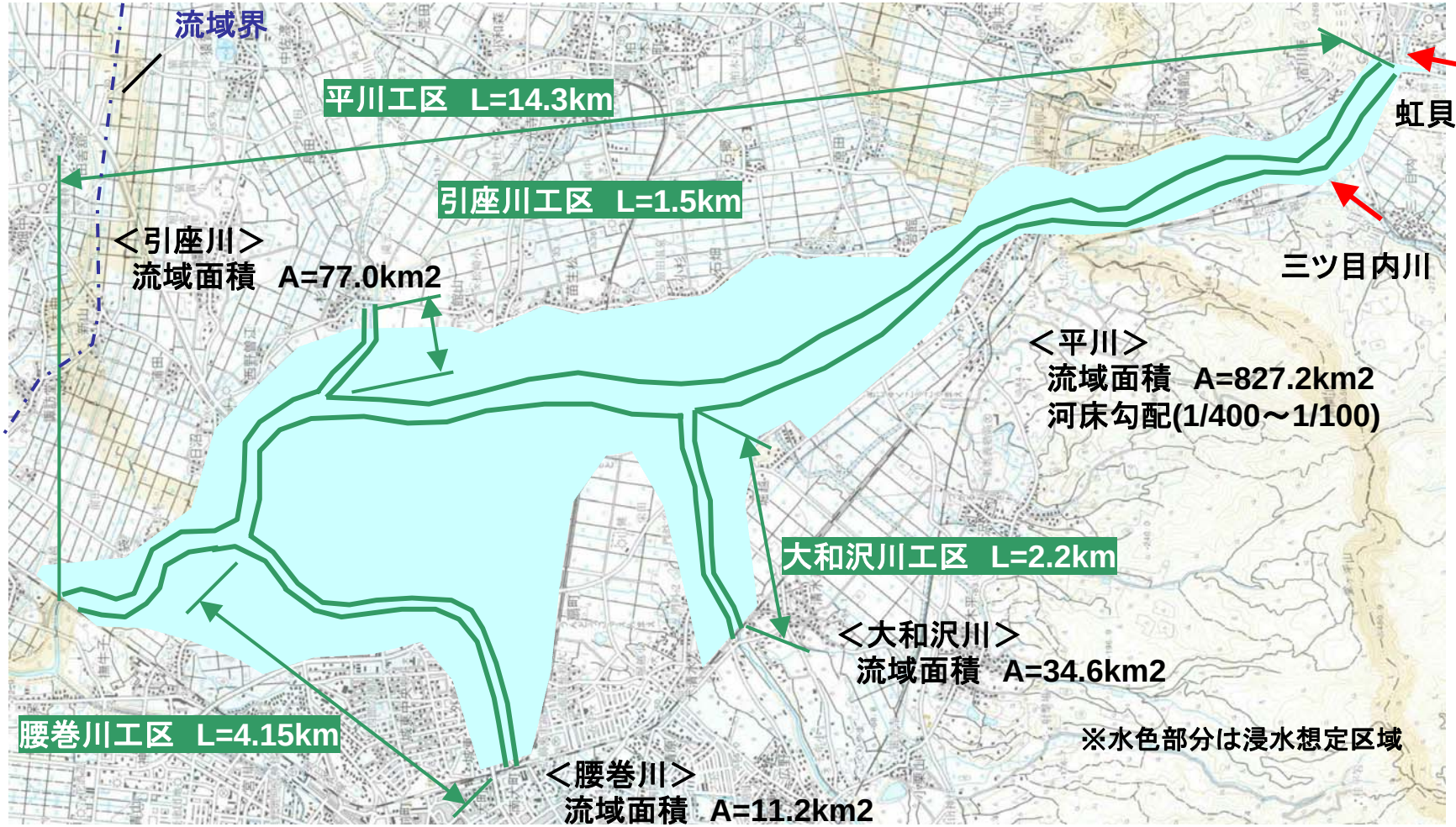
後長根川工区

●近年に大きな洪水被害を受けた昭和50年8月洪水や平成2年9月洪水、平成14年8月洪水を概ね安全に流下させるものとする。
●後長根川工区：岩木川合流点で320m3/s(1/30)



工事実施区間（弘前圏域）

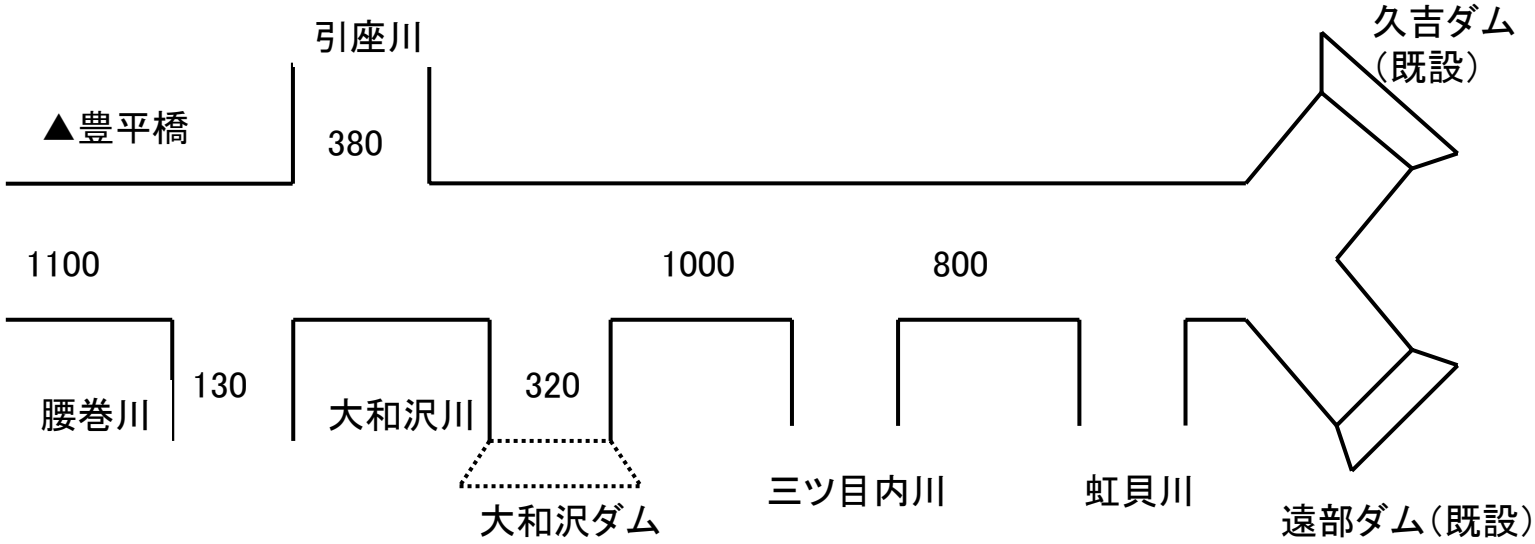
平川工区



工事実施区間（弘前圏域）

平川工区、引座川工区、大和沢川工区、腰巻川工区

●近年に大きな洪水被害を受けた昭和50年8月洪水、平成2年9月洪水を概ね安全に流下させるものとする。（昭和35年8月洪水(9時間降雨が1/100確率）以外の洪水には概ね対応可能）
●平川工区：豊平橋地点で1100m3/s（基本方針記載流量　2000m3/sの内数となっている）
●引座川工区：平川合流点で270m3/s
●大和沢川工区：平川合流点で320m3/s
●腰巻川工区：平川合流点で130m3/s



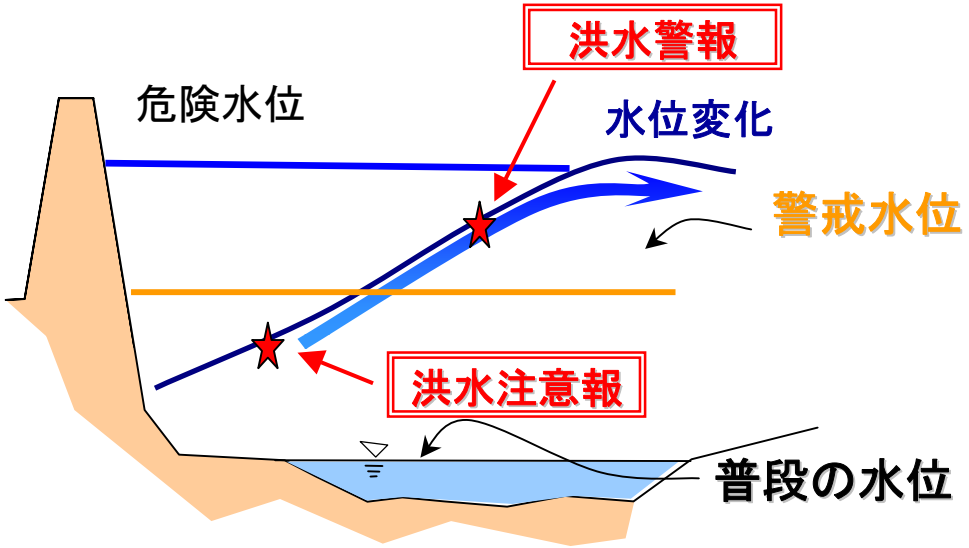
※合流時差があるため、支川と本川を合計した流量とその下流の流量が一致するとは限らない

危機管理対策に係る取組

○洪水予報河川

気象庁による雨量予測、河川管理者の水位予測を組合せ、数時間先の水位が警戒水位、危険水位を超えると予測される場合に、共同で洪水注意報、洪水警報の発表を行う河川

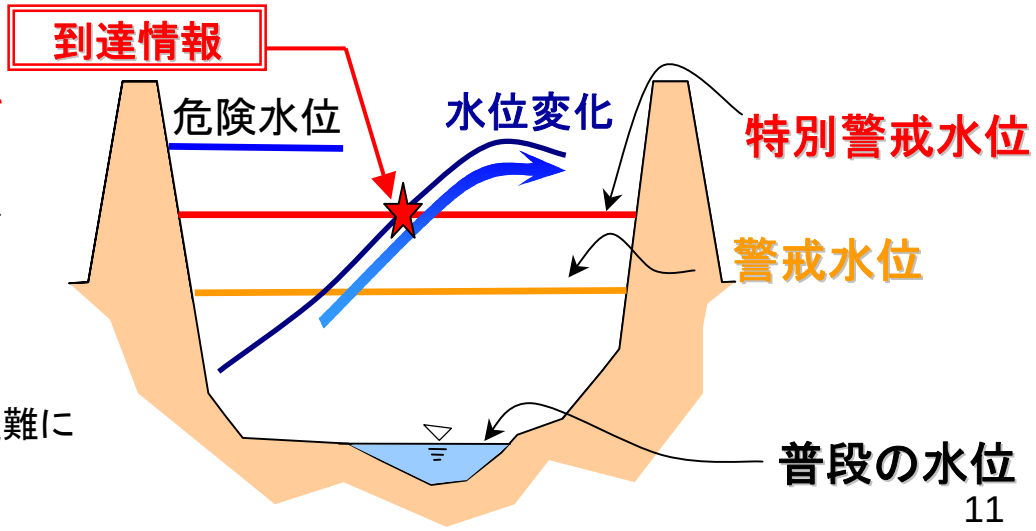
※警戒水位
水防団が出動する目安となる水位



○水位情報周知河川

流域面積が比較的小さく洪水予報を行う時間的余裕が無い河川であって、この河川の水位が特別警戒水位に達したことを住民に周知することとしている河川

※特別警戒水位
急激に水位が上がる中小河川において、避難に要する時間等を見越して予め設定した水位



危機管理対策に係る取組

＜五所川原圏域＞

●洪水予報河川
・十川（岩木川合流点～十川橋）
●水位情報周知河川
・旧十川（岩木川合流点～十川分派点）
・金木川（旧十川合流点～津軽鉄道）
・松野木川（旧十川合流点～松野木橋）
・十川（十川橋～本郷川合流点）
・浪岡川（十川合流点～正平津川合流点）
・後長根川（岩木川合流点～宮地橋）

＜弘前圏域＞

●洪水予報河川
・平川（県管理区間下流端～福島橋）
●水位情報周知河川
・腰巻川（平川合流点
～弘前市南大町一丁目）

